

兵庫県立鳴尾高等学校

保護者会

「ONE TEAM」

「ONE DREAM」

現代の高校生

その特徴と対応

人間関係に強いストレスを感じている高校生

- ・人間関係スキルを育む教育の必要性
- ・特別活動等を通して、温もりを感じる人間作りの体験
- ・望ましい友人関係を築くことが学校生活を充実させる重要なポイント

自尊感情、自己有用感、自己肯定感に乏しい高校生

- ・自分を認め、他人を認める教育の推進
- ・生徒に自信を持たせるためにありのままの姿を認め、「良いところ探し」に努める

「生き方」に悩む高校生

- ・「将来のあり方」を共に考え、支援する大人の役割大

大人から信頼されていないと感じている高校生

- ・生徒の声にじっくり耳を傾ける姿勢の重要性

規範意識（ルールを守る意識）が希薄な高校生

- ・きめ細かい個人指導の必要性
- ・会話を大切にする共感的指導の在り方

ゆとり世代 3つの特徴

- 1 周囲の人や社会に対する不平不満、批判が多く、問題を人や社会のせいにする。
- 2 「物事はうまくいって当たり前」と考えるため、少しでもうまくいかない自信を失う。
- 3 それでいて「このダメダメな状況を一気に解決する夢のような方法がどこかにある」と信じている

自信のない高校生

2人に1人が、「自分に人並みの能力がない」と思っている

3人に1人が、孤独を感じている

4人に3人が、「自分はダメな人間だ」と感じている

5人に4人が、何だか疲れている・・・

そして・・・

5人に3人が、「自分が参加しても、取り巻く社会が変わらない」と思っている

GANGっ子への私の思い

自分自身で苦難を乗り越えて 初めて楽しめるものがスポーツである

最近では、「スポーツは楽しむもの」というフレーズをよく耳にするが、この「楽しむ」ということがじつは大変難しいことだと私は思っている。

本来、スポーツとはとても厳しいものだ。自分の弱さと正面から向きあい、葛藤し、限界に挑戦し、壁を越えていかなければならない。私自身も、現役時代はつらいこと苦しいことの連続だった。厳しい練習から逃げ出してしまうと思う自分と闘い、負けた悔しさにどれほど苦悶してきたかわからない。

しかし、いまはどの場面を振り返ってみても、熱い思いがこみあげてくるほど懐かしい。当時のことをたずねられると、間違いなく「楽しかった」と微笑みながら語るができる。スポーツとは自分自身で苦難を乗り越えて、初めて楽しめるものなのではないだろうか。口に入れてすぐに「おいしい」「おいしくない」と判断できるようなものとは違う。スポーツの真の楽しさは、それほど簡単に享受することはできないのである。

どんなスポーツでもやるからには一生懸命取り組み、少しでもうまくなりたいと思うのが普通だ。もし、うまくいかなかったら「なぜ失敗したのだろう」と考え、「今度は、こんなふうにしてみよう」と工夫する。「自分はアマチュアだから勝負は二の次でもいいのだ」と思っている、勝ったときは「やった！」と喜ぶし、負けたときは「悔しい！この次は絶対に頑張ろう」という気持ちになるものだ。

そこには「よりうまくなりたい、より強くなりたい」という、人間本来の欲求がある。その欲求を満たすために苦しみを乗り越え、自分の限界に挑戦する。その結果として「楽しい」と感じられることが、スポーツの真の魅力ではないだろうか。

積み上げていく中で、自分を見つめ直す

一つ失敗したならば、それまでの過去（出来事）を見直し、その失敗をこれからどう活かしていけばいいかを考えていかなければなりません。

つまりマイナスをプラスにするのです。

それは、今までの価値観を反省し、新しい価値観を加えていくことです。同じ価値観のままならば、また同じ失敗をするかもしれません。そうならない為にも新しい価値観、人生観をそこに加えていかなければなりません。そのためには、失敗を潔く受け入れることも大切ですが、「しなやかな心」「やわらかな心」も欠かせません。

それは、田を耕すことと同じです。今、日本では荒れた田が増えていますが、それではいけません。荒れたままにしておけば、あっという間に草が生え、土は固くなり戻そうとしても困難になります。また、いい加減に手を加えていたのであれば、収穫時に美味しいお米は取れません。毎日、毎日、手を抜かずに手入れをしておくことが大切です。

鋤を持って田畑を耕すことをラテン語では「カルツール」と言います。この言葉が英語の「カルチャー」の語源になったそうです。文化を作り上げる人間も、田畑と同様、日頃から手をかけ、きちんと耕しておかなくてはなりません。そうすれば何かの種が飛んできた時にそれがすぐに根付き、辛さ・苦しみに出会った時には、それを解きほぐして逆に栄養分に変えることができるでしょう。

そして栄養分を十分に摂った種はどんどん成長し、いつかは立派な実をつけてくれる。

そんな、女性になってほしい。それが私の願いです。それこそが、

「十代の革命」

である。

私も3人の子どもの父親として

「子育て」って何だろう？

「思春期の子供への接し方」ってどうしたらいい？

娘の「反抗期」・・・・・・・・？

「クラブ活動の応援団」として？

「親」って・・・木の上に立って見る と書くけど？

**35年間の教師生活。28年目の父親。
感じたことを文章にしました。
一緒に考えてみませんか？**

世界に一つだけの花

君達は「世界に一つだけの花」です。一人ひとりが大切な価値を持ち、一人ひとりが輝くことが出来ます。人生の目的は自分の花を精一杯咲かせることです。君自身が生き生きと輝くことです。

しかし、今、君達はどうでしょうか。

春を待ち望む花のように、不安な冬に負けないでしっかりと上を向き、たくましい根を張り全身に力をみなぎらせ、瞳を輝かせているでしょうか。

- ・どうせ叶わないと夢を抱くことから逃げ、自分の可能性にフタをしていないか？
- ・将来を大切に思いながらも「そんな先のこと」と目を背け、安易にながれてはいないか？
- ・明るい未来が描けないのを、何かや誰かのせいにし、大切な今を無駄にしてはいないか？
- ・身も心も飾りたてることばかりに力を注ぎ、内面を磨くことを忘れてはいないか？

咲き誇る花が美しいのは、そこに至るまでの生命力を感じるからです。結果だけが全てではありません。そこに至る過程を大切にしておそ花を咲かせることができるのです。

今、君達はその大切な「過程」にいます。今、すべきことは何でしょうか？

BOYS BE AMBITIOUS (青年よ大志を抱け)

大きな夢を抱き、それに向けて努力を重ね、自分と会話を繰り返しながら己を知り、切磋琢磨して自分の個性を悟り磨く。その過程こそが大切だからです。今できることを精一杯することで道が開けることもあるでしょう。「個性」という花を咲かせるには、「志」という土壌が必要なのです。

高校時代は多感で危険な時期でもあります。しかし、今こそが「過程」です。美しく咲き誇る花を眺めましょう。自分自身をよく見つめましょう。自分の未来も思い描いてみましょう。そして「志」を胸に、大切な時間を過ごして欲しいと思います。

子育ての難しい時期

子育てが最も難しい時期はいつでしょうか？乳児期・幼児期・学童期・思春期……その答えは様々でしょう。

どの時期にもそれなりの苦勞があるものです。

子どもに手のかかる時期が、私たち親自身の人生が大変な時期と重なってしまうこともあります。時間的にも精神的にも余裕のない状態で子どもに寄り添い、子どもの成長を待つことは確かに大変です。しかし、子どもに関わることを忘れてはならないと思います。なぜなら、親は子どもの力を引き出す鍵を握っているからです。

高校生つまり思春期の子どもたちは、何より自分の話を聞いて欲しいと思っています。けれど、「親は自分の話を聞いてくれない、気づいてくれない」という不満を抱いている子どもが多いというのが実情です。彼らは自分が何者であるかを考え、悩む、自己発見の時期にいます。人生の意味を問い、自分は何の為に生きるのかを模索するのです。親や家族には、そんな自分に気づき、話を聞いて欲しいと思っています。なぜでしょうか？悩みを解決してもらうためではありません。自分の進む道を教え導いてほしいからでもありません。自分を知って欲しいからです。自分という存在を認めて尊重して欲しいからです。親に尊重されることが生きる自信につながり、他を尊重する姿勢を育てます。

思春期は子育ての総決算の時です。子どもを望ましい方向へ導くことの出来る最後のチャンスとも言えます。どうか、子どもの心に気づき、寄り添い、尊重してあげてください。

やがて子どもは巣立っていくでしょう。

その前に、

「自分を信じ」 「人を信じること」

の大切さを教えてあげてください。

苦しさは誰も変わってくれない

私は高校時代、自分が壁にぶつかるたびに

「どうしたらこの壁を乗り越えられるか」

「どうやって失敗を克服したらいいのか」

ということを考えながら、バスケットに取り組んできた。

そんな時、いつも支えになったのが、父親から教えられた次の言葉だった。

「苦しいとか・辛いとか・悲しいとかは、誰も変わってくれない。

だから、自分自身で全部“いただきます”と受け止めなければなら
ない」

すべてを受け止めたうえで、どうやって壁を乗り越えていくか。

それは、高い志を持ち、目標設定をするということを教えられた。

今の高校生を見ると、失敗をしたり壁を乗り越えられないと、他人の責任・学校の責任・社会の責任にしようとする姿ばかりが目につく。

しかし、自分に矢印を向けることもせずに、言い訳ばかりをしていたところで、次の一步を踏み出すことは出来ないだろう。新たな活力を生み出すためには、矢印を自分に向けること以外に方法はない。自分に矢印を向け、その結果を受け止める勇気を持つことから始まるものなのだ。

いくら親に財産があろうが、地位や名声があろうが、高校生は自分の足で歩んでいかなければなりません。親が代わりに子供の人生を歩むことなどできません。苦しいことがあろうが、辛いことがあろうが、自分の足でしっかり前進していける強さを身につけさせることが親の務めではないでしょうか？

もちろん、危ないときに手をさしのべてやることは必要です。もう一步がどうしても踏み出せないときに、「さあ！行きなさい・頑張りなさい」と勇気の後押しをしてやることも大切だと思います。

「笑顔を絶やさず、もう一步前進」

親が子供の代わりにやれることは、 何ひとつない

私はスポーツの指導を長年行ってきて、いろいろな親の姿を見ることが出来た。その中でも特に気になるのは、「子供のために」といいながらかえって成長の妨げになるようなことをしてしまう親である。

たとえば、自分の子供がレギュラーに選ばれないと「なんで、うちの子供を試合に出さないんだ」と怒ってくるケースなどもそうだ。

そんな親に対して私は、「もっと自分の子供のことを知りなさい」と言いたい。厳しい練習を課すと気を抜いてしまったり、体がきつくなると勝手に練習をさぼったり、みんなが歯を食いしばって頑張っているときに、自分だけそこから逃れているようなことをしていたら、レギュラー争いに勝ち残ることなどできない。

そんな子供の姿を知りもせず、レギュラーになれないからといって、こちらに批判の矛先を向けていたのでは、子供を甘やかすばかりだ。ハードな練習でつらい思いをさせるのはかわいそうだからと思うだろうが、親が苦情を言ったところで、子供の為には何の役にも立たない。だからこそ親は、頑張りが足りなかったからレギュラーになれなかったのだという事実を、きちんと子供に気づかせてやるべきだ。そして、「練習は誰にも代わってもらえない。自分が頑張らなければならないんだ」ということを、教える必要がある。

長い人生を生き抜かなければならない子供のためを思ったら、そこをおろそかにしてはいけない。いくら親に財産があろうが、地位や名誉があろうが、子供たちは自分の足で歩いていかなければならない。親が代わりに子供の人生を歩むことなどできないのだ。

ならば、苦しいことがあろうが、つらいことがあろうが、自分の足でしっかりと前進していけるような強さを身につけさせることが親の務めではないだろうか。

もちろん、危ないときに手をさしのべてサポートしてやることは必要だ。もう一歩がどうしても踏み出せないときに、「さあ、行きなさい！」と背中を押してやることも大切である。しかし、親が子供の代わりにやってやれることは何一つない。「子供のためなら、なんでもしてやれる」という考えは、親の思いあがりか、傲慢さでしかない。

また、そのことに気づいていない親が非常に多い。そして、そういう親を容認している世の中に問題があるのではないかと思っている。

子供たちの生活習慣は、家庭の中で身につけさせる

近年、社会問題としてクローズアップされていることの一つに、「学級崩壊」という問題がある。学校で子どもたちが静かにできないために授業が成り立たないという状況だ。これに対して子供たちの親から、「学校や先生は手をこまねいているだけで、責任をもって教育してくれない」という声があがっている。

(10年前に書いた文章なので、少しちがうかも?)

しかし、私はその声には共感できない。なぜなら子供の教育というのは学校教育だけがすべてではないからだ。まず、基本にあるのが家庭教育であり、それから学校教育があり、社会教育がある。そして、これらの教育環境がそれぞれの役割をきちんと果たすことで、初めて子供の教育が成り立つからだ。

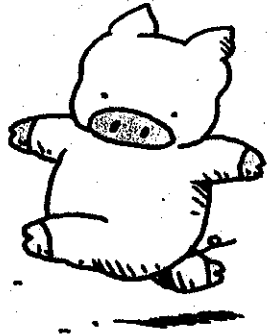
その中で、学校というところは学問を学ぶところであり、発達段階に応じて必要なことをきちんと学ばせることが求められている。その意味でいうと、日本の学校教育は、世界のどの国にも負けないほど高レベルなカリキュラムが組まれている。しかし、基本となる家庭教育はどうかというと、とても“高レベル”とはいえないように私には思える。学校教育よりもむしろ、家庭教育が崩れつつあるのではないかとさえ感じることが多い。

たとえば、最近の子供たちを見ていると、「挨拶をする」「遅刻をしない」「休むときは連絡を入れる」などといった、基本的なことができない子供がたくさんいる。また、夜中まで出歩いたり、テレビやパソコンなどに夜通し興じるといったように、生活時間が乱れている子供も少なくない。しかも、夜中になっても子供が家に帰ってこないのに、心配すらしらない親も多いと聞く。

(バスケット部とは、無縁のはなしです)

現代は、街中が夜中まで煌々と明かりをつけていて、昼夜の区別がつかなくなりつつある。以前に比べれば娯楽もふえ、子供の興味を引くものが氾濫している。そういう社会だからこそ、子供にはどういう生活をさせていけばいいのか、しっかり教育する必要がある。子供の生活習慣というものは、家庭の中で身につけさせるものだ。それは、一日二十四時間という時間を、どのように過ごしていくのかということの積み重ねによるものである。

それぞれの家庭には事情があり、なかなか子供の側においてやれないということもあるだろう。だが、最後にはやはり親が責任をもち、子供と向かい合い、導いていかなければいけないと私は思う。



ギタリストになりたいって？

いま何ができる？

ギターを弾くしかないよね

小説家になりたいって？

いま何ができる？

原稿のマス目をどんどん埋めるしかないよね

「…したい」「…になりたい」って

悩んでいてもしかたないよね

ホントになりたい人は

言う前に もうやってるよ

とんどん 行動しているよ

いま

何が

できるか